

第10回小児がん中央機関アドバイザリーボード概要

令和6年3月11日、第10回小児がん中央機関アドバイザリーボードが国立医療研究センターにて開催され（ハイブリッド開催）、小児がん中央機関アドバイザリーボード委員、厚生労働省健康局がん・疾病対策課、小児がん中央機関が参加した。（出席者名簿）開会にあたり、国立がん研究センターの中釜斉理事長、国立成育医療研究センターの五十嵐隆理事長より挨拶があった。また、厚生労働省健康局がん・疾病対策課の上野琢史課長補佐より挨拶があった。

1. 小児がん中央機関からの報告

① 国立がん研究センターからの報告

井上真奈美副所長（国立がん研究センターがん対策研究所）より、国立がん研究センターでの情報提供・相談支援について報告がなされた。（資料1-1）。

② 国立成育医療研究センターからの報告

松本公一センター長（国立成育医療研究センター小児がんセンター）より、小児がん中央機関としての取り組みについて報告がなされた。（資料1-2）

2. 小児がん中央機関の行うべき業務

① 小児がん相談・支援事業について

鈴木彩医療社会事業専門員（国立成育医療研究センター医療連携・患者支援センター）より、小児がん相談・支援事業について報告がなされた。（資料2）

② 小児がん登録事業について

加藤実穂医長（国立成育医療研究センター小児がんセンター小児がんデータ管理科）より、小児がん登録事業について報告がなされた。（資料3）

③ 小児がん医療の診断支援事業について

出口隆生診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンター小児がん免疫診断科）より、造血器腫瘍マーカー中央診断について報告がなされた。（資料4-1）

続いて、宮寄治診療部長（国立成育医療研究センター放射線診療部）から資料の説明が行われ、中央画像診断について報告がなされた。（資料4-2）

④ 部会からの報告

嶋田せつ子看護部長（国立成育医療研究センター看護部）より、看護部会の取り組みについて報告がなされた。（資料 5-1）

余谷暢之診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンターがん緩和ケア科）より、緩和ケア部会の取り組みについて報告がなされた。（資料 5-2）

⑤ 医療従事者育成事業について

余谷暢之診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンターがん緩和ケア科）より、今年度の小児がん緩和ケアチーム研修について報告がなされた。（資料 6-1）

次に、井口晶裕診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンター血液内科）より、小児がんリハビリテーション研修会について報告がなされた。（資料 6-2）

最後に、松本公一センター長（国立成育医療研究センター小児がんセンター）より、小児がん患者のための復学支援を考えるための講演について報告がなされた。（資料 6-3）

3. 討議事項

① 小児がん連携病院指定の現状について

松本公一センター長（国立成育医療研究センター小児がんセンター）より、小児がん連携病院指定の現状について報告された。（資料 8）

② ドラッグアクセスの改善について

富澤大輔診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンター血液腫瘍科）、小川千登世科長（国立がん研究センター小児腫瘍科）より、ドラッグアクセスの改善について報告がなされた。（資料 9-1）（資料 9-2）

③ 長期フォローアップについて

加藤実穂医長（国立成育医療研究センター小児がんセンター小児がんデータ管理科）より、長期フォローアップ関連業務の進捗について報告がなされた。（資料 10）

④ 小児がんゲノム医療の現状と課題について

加藤元博診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンター小児がんゲノム診療科）より、小児がんゲノム医療の現状と課題について報告がなされた。（資料 11）